

# 教 育 研 究 業 績

2019年5月1日

氏名 関谷 大輝

学位: 博士 (カウンセリング科学)

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 心理学 (産業心理学, 感情心理学, 福祉心理学, 観光心理学)</li> <li>• ソーシャルワーク</li> </ul>	感情労働, 職業ストレス, バーンアウト, ワークエンゲージメント, キャリア, 温泉ツーリズム ソーシャルワーク, ケースワーク	
主要担当授業科目	一般心理学, 社会心理学, 相談援助実習, 相談援助実習指導, 福祉心理学研究, ソーシャルワーク研究, 卒業論文	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		
1) ゼミナール内での学生との教材共同制作	平成26年6月～平成28年7月	ゼミナール内での社会福祉士国家資格対策学習において、頻出用語を効率的に理解・記録するための方策として、「かるた」形式の暗記教材を所属ゼミ生と共に共同制作している。
2) 社会福祉士試験対策用の独自問題の作成	平成26年6月～平成28年1月	社会福祉士国家資格に向けた学習促進の一環として、ゼミナール内での問題演習を実施している。その際の問題は、過去の出題傾向や重要事項を反映し、再生型問題を独自に作成した。
3) 社会福祉支援現場の職員と協働したシンポジウムの開催	平成26年7月	社会福祉の支援現場の実情、実態を理解し、将来のキャリアプランに役立つことを意図し、現職の社会福祉職公務員を招聘した座談会形式のシンポジウムを開催した。聴講した学生からは、「現場のことがよくわかった」「聞いていて飽きなかった」といった好意的な評価が多く寄せられた。
4) 筑波大学心理学系ゼミとの合同研究発表会の企画実施	平成27年8月 平成28年9月	筑波大学心理学系の湯川研究室、藤研究室との合同研究発表会を企画・実施し、卒業論文の指導を受講している3～4年生の研究発表について指導を行うとともに、大学間での親睦を図った。
5) 卒業論文研究の学会発表に関する指導および大会参加	平成27年10月 平成28年6月 平成29年6月 平成30年11月	卒業論文ゼミに所属する学生の研究課題について、研究成果を学会にて発表することを目標に指導を行ない、平成27年10月には日本福祉心理学会大会にて、平成28年6月および平成30年11月には日本感情心理学会大会にて、それぞれ在学中の4年次生がポスター発表を行った。
6) 学外見学研修コーディネート	平成28年2月, 平成28年8月	対人支援に関わる実践現場を間近に見学することで、学習を深めることを目的に、現場で支援に当たるスタッフの方の助力を得て、主にゼミ所属学生が参加する学外研修を計画・コーディネートした。平成28年2月には、横浜市西部児童相談所および横浜市中区寿地区の見学、平成28年8月には、東京都・山谷

<p>7) 双方向性を重視したリアクションペーパーの改善</p> <p>8) 課外活動指導・支援</p> <p>9) 公務員合格対策(小論文等)ゼミの主催</p> <p>10) ICTを活用したリアクションおよび授業内アンケート実施</p>	<p>平成28年4月～平成31年2月</p> <p>平成28年11月～平成31年3月</p> <p>平成31年4月～</p> <p>平成31年4月～</p>	<p>地区の訪問看護ステーションの見学を実施した。</p> <p>三重大学・織田揮氏が考案した「大福帳」をアレンジし、大人数の講義科目でも学生が臆せず質問や意見表明等ができるリアクションペーパーを作成し、活用している。すべてのリアクションには毎授業後に目を通し、些細な質問であっても可能な限りレスポンスを行った。</p> <p>楽器演奏経験がある学生を募り新たな音楽サークルを立ち上げ、顧問に就任するとともに、メンバー(奏者)としてもサークル活動に参加している。学生のサークル運営における自主性を尊重しながら、必要に応じて演奏企画の提案や事務局との調整などを行った。活動の安定化を支援し、ミニ演奏会の開催や学園祭での演奏を実現する等した。</p> <p>学科内に一定数の公務員志望者がいることを踏まえ、学生独力では対策が困難であり、かつ、学内実施の公務員講座でも扱っていない小論文対策を中心に、講義、演習、添削等を実施する自主ゼミを組織した。なお、正規の担当ゼミからは過去3年間に2名の公務員合格者を排出しており、その際の助言指導内容等も活用しながら、今後の公務員志望者の組織化と公務員受験対策のバックアップを開始している。</p> <p>Google フォームを活用し、授業ごとのリアクションや質問受付を行っている。また、授業内での質問紙回答演習を実施する際にもオンライン上での回答を行うことで、受講生平均値等の簡易な分析結果をフィードバックしている。</p>
<p>2 作成した教科書・教材</p> <p>1) 『スタンダード社会心理学』(サイエンス社)</p> <p>2) 『看護に活かすカウンセリング II 感情のマネージメント—効果的な患者支援と看護師のメンタルヘルスのための自己調節—』(ナカニシヤ出版)</p>	<p>平成22年</p> <p>平成28年</p>	<p>シリーズ第8巻“社会心理学”のうち、“健康”に関する章において、現代の職業人の精神的健康に関する内容について、感情労働の視点を中心に据え、分担執筆を行った。(該当章分担執筆: 畑中美穂・関谷大輝, 松井 豊(監修), 湯川進太郎・吉田富二雄(編集))</p> <p>シリーズ第2巻中、感情の開示について扱う章を分担執筆として担当した。 (伊藤まゆみ(編), 分担執筆 範囲: 第5章3 『不快な感情を効果的に表出する: 筆記開示法』)</p>
<p>3 当該教員の教育上の実績に関する大学等の評価</p> <p>1) 聴講学生による授業評価(『社会心理学特講』筑波大学)</p>	<p>平成24年12月</p>	<p>聴講生(N=25)より無記名式の講義評価アンケートを回収した。その結果、本講義は絶対評価(100点満点)において平均88.72(SD: 9.74)点の評価を得た。また、他の講義との比較による相対評価においても、本講義は上位17パーセント以内の位置づけられる講義であったと評価され(受講者の半数は10パーセント以内と評価した)、総体的に高い評価を得た。</p>

2) 聴講学生による授業評価 (『一般心理学』東京成徳大学)	平成 26 年 1 月	聴講生 (N=85) を対象に、通年授業の最終回 (年度末) に実施したアンケートにおいて、「教員が熱心」「受講してよかった」など 19 種から成る評価項目において、2 項目 (「自分はこの授業で遅刻はしていない」、「私語、居眠り、携帯電話操作などはしていない」) を除き、全体平均得点を上回る評価を得た。また、全 19 項目の平均得点は 4.36 点 (最大値 5 点) であり、他講義も含めた大学全体の平均得点である 4.05 点を上回る高い評価を得た。
3) 聴講学生による授業評価 (『一般心理学』東京成徳大学)	平成 27 年 9 月	聴講生 (N=79) を対象に実施したアンケートにおいて、17 領域中 15 領域において、全体平均得点を上回る授業評価を得た。平均を下回った 2 領域は、学生が学生自身を評価する「予習復習をしている」「授業に集中できている」であった。総合的に「この授業を受けてよかった」という評価も 5 点中 4.6 点であり、前年度を上回る評価を得た。
4) 聴講学生による授業評価 (『心理学原論、心理学』常磐大学)	平成 29 年 3 月	聴講生 (N=55) を対象に実施した授業評価アンケートにおいて、「この授業を受けて満足した」という質問に対し、平均得点が 5 点中 4.62 点の高い評価を得た。自由記述回答においても、「身になることを学べた」「毎授業がとても新鮮だった」「授業が楽しかった」「授業の雰囲気が良い」「面白く、あきることがなかった」といった肯定的評価が多く寄せられた。
5) 聴講学生による授業評価 (『社会福祉援助技術演習 II』常磐大学)	平成 29 年 3 月	聴講生 (N=10) を対象に実施した授業評価アンケートにおいて、「この授業を受けて満足した」という質問に対し、平均得点が 5 点中 4.5 点の高い評価を得た。自由記述回答では、「今後役に立つようなことを学習した」「説明がわかりやすかった」「他の科目では学べないことを学べた」「書く力、読み取る力などが身に付いた」など、肯定的な評価が多く寄せられた。
6) 聴講学生による授業評価 (『カウンセリング心理学』東京成徳大学)	平成 30 年 7 月	聴講生 (N=26) を対象に実施した授業評価アンケートにおいて、「この授業を受けて満足した」という質問に対し、平均得点が 5 点中 4.4 点の高い評価を得た (大学全体の平均得点は 4.1 点)。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) 社会福祉士相談援助実習生受け入れ時の指導分担	平成 15~17, 21~24 年	社会福祉士相談援助実習を行う大学生を受け入れる際、所属内における実習生指導を分担し、実習記録へのコメント、実習生教育等を行った。
2) 社会福祉士実習指導者講習会修了	平成 25 年 3 月	社会福祉士相談援助実習の実習生を受け入れる実習施設側の立場から、実習指導の要点やプログラミングの手法、養成校との連携等について講習を受けた。これによって、施設側の実習生受け入れ時の対応についても理解を深め、その知識を大学での実習指導に反映している。
3) 精神保健福祉士国家資格取得	平成 28 年 4 月	通信制専門学校を活用し、精神保健福祉士国家試験を受験し、

4) ストレスチェック実施者研修 会修了	平成 29 年 6 月	同資格を新たに取得した。受験にあたって学習した事項や、実際に受験をした経験等を、これから受験を控えている学生への指導に還元していく。
5) 茨城県スクールソーシャルワ ーカー	平成 31 年 4 月～	労働安全衛生規則第 52 条の 10 第 1 項第 3 号の規定に基づき厚生労働大臣が定める研修（ストレスチェック実施者研修、主催：公益社団法人日本精神保健福祉士協会）を受講し、精神保健福祉士として事業所のストレスチェック実施者となる資格を得た。  茨城県スクールソーシャルワーカーとして任用された。
5 その他 1) 東京成徳大学心理・福祉相談室 室長代行（兼担カウンセラー）	平成 27 年 4 月～ 平成 31 年 3 月	東京成徳大学心理・福祉相談室の室長代行として、相談室の運営業務を担当している。また、カウンセラーとして一般市民からの相談に応じ、定期的なカウンセリング臨床等を担当した。
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 資格、免許  1) 社会福祉士 国家資格 2) 精神保健福祉士 国家資格 3) 専門社会調査士 4) 国家資格キャリアコンサルタント 5) 公認心理師	平成 13 年 4 月 平成 28 年 4 月 平成 23 年 10 月 平成 30 年 2 月 平成 31 年 2 月	社会福祉士登録番号：27530 号 精神保健福祉士登録番号：71533 号 第 001803 号 登録番号 17075442 第 7233 号
2. 特許 —	—	—
3. 実務の経験を有する者について の特記事項  1) 福祉事務所生活保護担当部署で の勤務経験  2) 児童相談所での勤務経験  3) 社会福祉法人八千代市身体障害 者福祉会 事業所第三者委員  4) 千葉県八千代市 八千代市高齢 者虐待防止地域連絡会委員	平成 13 年 4 月～ 平成 23 年 3 月  平成 23 年 4 月～ 平成 25 年 3 月  平成 28 年 4 月～  平成 26 年 11 月 ～	横浜市役所（社会福祉職）職員として、区福祉事務所（福祉保健センター）生活保護担当部署に勤務した。地区担当ケースワーカーとして、生活保護ケースワークの実践に携わった。担当世帯数は各年度概ね 100 世帯前後であり、生活困窮支援や自立支援、就労支援などの相談対応を行った。  横浜市役所社会福祉職職員として、児童相談所に勤務した。児童福祉司として、児童福祉分野でのケースワーク実践に携わった。保護者および児童本人に対する児童虐待相談対応をはじめ、非行少年の相談支援、地域連携（各種協議会等への出席）等に従事した。  社会福祉法人の外部第三者委員として委嘱を受け、事業所を定期的に訪問し、利用者からの相談対応や苦情受付などについて面談を行っている。  千葉県八千代市からの委嘱により、高齢者虐待防止地域連絡会委員（学識経験者）として、連絡会への参加や議長（議事進行）を務めている。

5) 茨城県スクールソーシャルワーカー	平成 31 年 4 月～	茨城県スクールソーシャルワーカー（非常勤）としての委嘱を受けた。今後、相談依頼に応じて支援に従事する予定である。
4. その他 ＜受賞＞		
1) 日本感情心理学会第 18 回大会 優秀発表賞受賞	平成 22 年 5 月	日本感情心理学会第 18 回大会（広島大学）におけるポスター発表（関谷大輝・湯川進太郎（2010）. 携帯電話の E メールを活用した感情開示効果の検討—感情労働を行う現職の社会人を対象に— 日本感情心理学会第 18 回大会プログラム・予稿集, 30 頁.）に対し、優秀発表として表彰を受けた。
2) 筑波大学心友会 上武学術奨励賞受賞	平成 22 年 9 月	関谷大輝・湯川進太郎（2009）. 対人援助職者の感情労働における感情的不協和経験の筆記開示 心理学研究, 80, 295-303. に対し、研究成果が優秀であったとして表彰を受けた。
3) 筑波大学大学院人間総合科学研究科長賞受賞	平成 23 年 3 月	筑波大学大学院人間総合科学研究科博士後期課程在学中の研究成果が優秀であったとして、課程修了時に表彰を受けた。
4) 日本感情心理学会 『感情心理学研究』 20 巻優秀論文賞受賞	平成 25 年 5 月	関谷大輝・湯川進太郎（2012）. 副次的感情の開示による感情労働者のバーンアウト低減の試み—携帯電話の電子メール機能を活用して— 感情心理学研究, 20, 9-17. に対し、研究成果が優秀であったとして表彰を受けた。
5) 日本ヒューマン・ケア心理学会 学術集会第 18 回大会 優秀発表賞 口頭発表部門 受賞	平成 28 年 9 月	日本ヒューマン・ケア心理学会 学術集会第 18 回大会における口頭発表（関谷大輝・ナン カンキン（2016）. 仲間集団との関わりが持つ意味と影響—日本人とミャンマー人の比較から見える支援へのパースペクティブ— 日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第 18 回大会 プログラム・講演集, 36.）に対し、優秀発表賞として表彰を受けた。
6) 日本感情心理学会第 25 回大会 グッド・プレゼンテーション賞	平成 29 年 6 月	日本感情心理学会第 25 回大会において行ったポスター発表（福島・関谷・石井（2017）. あなたの印象は 1 分で悪化する—既読後の時間経過が印象評価に与える影響）に対し、表彰を受けた。
＜社会貢献活動＞		
1) メディア掲載, 取材対応	平成 29 年 2 月	・【インタビュー】 著者に訊く！：あなたの仕事、感情労働ですよね？ 株式会社ぎょうせい 月刊ガバナンス No. 190 (2017. 2 月号)
	平成 29 年 4 月	・【寄稿】 日々疲れ果ててしまうのは「感情労働」のせい？ 読売新聞社 YOMIURI ONLINE 深読みチャンネル
	平成 29 年 5 月	< <a href="http://www.yomiuri.co.jp/fukayomi/ichiran/20170330-0YT8T50031.html?from=ytop_os1&amp;seq=02">http://www.yomiuri.co.jp/fukayomi/ichiran/20170330-0YT8T50031.html?from=ytop_os1&amp;seq=02</a> >
	平成 23 年 12 月	・【インタビュー】 著者インタビュー：あなたの仕事、感情労働ですよね？ 環境新聞社 『シルバー新報』 第 1258 号
	平成 30 年 8 月	・【インタビュー】

		<p>モチィファイ株式会社 (Motify) 働き方の達人 20 ポッドキャスト 「働き方の達人」 エピソード 20: あなたの仕事、感情労働ですよ?</p>
2) 団体・法人等研修会講師	<p>平成 23 年 12 月</p> <p>平成 24 年 5 月</p> <p>平成 24 年 8 月</p> <p>平成 24 年 11 月</p> <p>平成 25 年 2 月</p> <p>平成 25 年 8 月</p> <p>平成 25 年 9 月</p> <p>平成 25 年 11 月</p> <p>平成 26 年 2 月</p> <p>平成 26 年 3 月</p> <p>平成 26 年 11 月</p> <p>平成 28 年 6 月</p> <p>平成 28 年 12 月</p> <p>平成 29 年 8 月</p> <p>平成 29 年 9 月</p> <p>平成 29 年 10 月</p> <p>平成 29 年 12 月</p> <p>平成 30 年 2 月</p> <p>平成 30 年 4 月</p> <p>平成 30 年 5 月</p> <p>平成 30 年 8 月</p> <p>平成 30 年 10 月</p> <p>平成 30 年 10 月</p> <p>平成 30 年 12 月</p> <p>平成 30 年 12 月</p> <p>平成 31 年 1 月</p> <p>平成 31 年 2 月</p> <p>平成 31 年 2 月</p> <p>平成 31 年 2 月</p> <p>平成 31 年 3 月</p> <p>平成 31 年 3 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【講師】平成 23 年度関東地区知的障害関係施設種別代表者会議 長野大会</li> <li>・【講師】知的障害福祉協会 合同研修会</li> <li>・【講師】知的障害福祉協会 研修会</li> <li>・【講師】社会福祉法人 研修会</li> <li>・【講師】社会福祉法人 研修会</li> <li>・【講師】社会福祉法人 研修会</li> <li>・【講師】知的障害福祉協会 研修会</li> <li>・【講師】社会福祉法人 研修会</li> <li>・【講師】社会福祉法人 研修会</li> <li>・【講師】社会福祉法人 メンタルヘルス研修会</li> <li>・【講師】社会福祉法人 講演会</li> <li>・【講師】県知的障害福祉協会 研修会</li> <li>・【講師】公益社団法人 研修会</li> <li>・【講師】社会福祉法人 合同研修会</li> <li>・【講師】公益社団法人 研修会</li> <li>・【講師】公益財団法人 研修会</li> <li>・【講師】筑波大学キャリアプロフェッショナル養成講座</li> <li>・【講演】全国社会福祉協議会 全国研修会</li> <li>・【講演】株式会社 講演会</li> <li>・【講師】県知的障害施設団体連合会 研修会</li> <li>・【講師】自治体 研修会</li> <li>・【講師】自治体 研修会</li> <li>・【講師】公益財団法人 研修会</li> <li>・【講師】社会福祉法人 研修会</li> <li>・【講師】社会福祉法人 研修会</li> <li>・【講師】社会福祉法人 研修会</li> <li>・【講師】自治体 研修会</li> <li>・【講師】自治体 研修会</li> <li>・【講演】筑波大学 TCCP イブニングレクチャー</li> <li>・【講義】社会福祉法人 研修会</li> </ul>
3) 社会福祉士受験対策講座講師	<p>平成 25 年 12 月</p> <p>平成 26 年 8 月</p> <p>平成 27 年 9 月</p> <p>平成 28 年 8 月</p> <p>平成 29 年 9 月</p> <p>平成 30 年 9 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【講師】社会調査の基礎をマスターしてみる 桜美林大学 社会福祉士国家試験対策講座</li> <li>・【講師】「社会調査の基礎」・・・の基礎をマスター 桜美林大学 社会福祉士国家試験対策講座</li> <li>・【講師】「社会調査の基礎」の基礎をマスター 2015 桜美林大学 社会福祉士国家試験対策講座</li> <li>・【講師】『社会調査の基礎』は実はそんなに難しくない件 桜美林大学 社会福祉士国家試験対策講座</li> <li>・【講師】『夏の終わりに『社会調査の基礎』一気に復習大会 2017』 桜美林大学 社会福祉士国家試験対策講座</li> <li>・【講師】『3時間で覚えられないけど理解はできる『社会調査</li> </ul>

		の基礎』2018』 桜美林大学 社会福祉士国家試験対策講座
4) 教員免許状更新講習講師	平成 26 年 8 月 平成 27 年 7 月 平成 29 年 8 月 平成 30 年 8 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【講師】平成 26 年度免許状更新講習 東京成徳大学</li> <li>・【講師】平成 27 年度免許状更新講習 東京成徳大学</li> <li>・【講師】平成 29 年度免許状更新講習 東京成徳大学</li> <li>・【講師】平成 30 年度免許状更新講習 東京成徳大学</li> </ul>
5) 公開講座講師	平成 26 年 11 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【講師】『“虐待”問題について考える』 東京成徳大学八千代キャンパス 平成 26 年度公開講座 (八千代市生涯学習プラザ)</li> </ul>
6) 公開シンポジウム企画	平成 26 年 7 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【公開シンポジウム企画, 話題提供】 “社会福祉職”としての支援の実際～福祉行政の現場からの声～ (東京成徳大学応用心理学部福祉心理学科主催, 日本福祉心理学会・日本健康心理学会児童虐待防止研究部会後援シンポジウム) 話題提供者: 高岡俊雄・塩田 学・寶田宣亮・<u>関谷大輝</u>, 指定討論・コメンテーター: 宮村りさ子, 企画・コーディネーター: <u>関谷大輝</u></li> </ul>
7) 公開シンポジウム登壇・話題提供	平成 23 年 9 月  平成 25 年 7 月  平成 29 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【話題提供】 筑波大学大学院 Tsuku-場オープニング・イベント『場からひろがる学びとキャリア』 話題提供: 『福祉—産業のつながり』</li> <li>・【話題提供】 日本福祉心理学会シンポジウム 『HOPE いま, 福祉心理学に期待されるもの—福祉心理学を学ぶ若人へ—』 企画・司会: 中山哲志, 話題提供者: 請井征力・<u>関谷大輝</u>・宮本文雄, 指定討論者: 渡邊映子</li> <li>・【話題提供】 感情労働～医療・福祉の現場から～ 産業・組織心理学会 部門別研究会 (第 124 回組織行動部門) 話題提供: 『感情労働とバーンアウト再考』</li> </ul>
8) 高校進学ガイダンス, 体験授業	平成 26 年 10 月 平成 26 年 11 月 平成 27 年 5 月 平成 27 年 6 月 平成 27 年 11 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【講師】東京都立竹台高等学校 系統・分野別説明会 (福祉・心理)</li> <li>・【講師】千葉県立佐倉東高等学校</li> <li>・【講師】東京成徳大学 クラーク記念国際高等学校体験授業 『「心理学入門」…の入門!』</li> <li>・【講師】中山学園高等学校 『「心理学入門」—あなたとワタシのちょうど良い“距離感”』</li> <li>・【講師】千葉県立佐倉東高等学校 『大学で学ぶ「心理学入門」』</li> </ul>

9) その他講師, 情報提供等	平成 28 年 3 月	・【講師】わせがく高等学校勝田台学習センター進学ガイダンス 『「心理学入門…の入門!」』
	平成 25 年 1 月	・【講師】千葉県立佐倉南高等学校 進学ガイダンス 『「大学で学ぶ心理学入門」』
	平成 26 年 2 月	・【講師, 情報提供】 日本福祉教育専門学校 GSV 「対人援助職」という感情労働 ～持続可能な職業生活のために知る感情労働とその影響～
	平成 26 年 3 月	・【パネリスト, 講師, 情報提供】 独立行政法人経済産業研究所 人的資本という観点から見たメンタルヘルスについての研究会筆記開示法の実践的応用とその効果
	平成 26 年 3 月	・【対談, コメンテーター】 講話 (対談) 『地域と考える児童虐待』 映画 『隣る人』 上映会, 対談会 28 日 高橋 克己・関谷 大輝
平成 26 年 9 月	・【コメンテーター, 助言】 『こども支援士』 認証講座 (アフタースクール) 課題研究 「現在の子どもたちの成長のスタイルを考える」 東京学芸大こども未来研究所 司会: 深谷昌志, 講評: 中山哲志・関谷大輝	
平成 30 年 5 月～	・【講師】 東京都社会福祉協議会登録講師派遣事業 登録講師	

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
(著書)				
1) ライブラリ・スタンダード心理学 8 『社会心理学』	分担執筆	平成 24 年 12 月	サイエンス社	シリーズ第 8 巻 “社会心理学” のうち, “健康” に関する章において, 現代の職業人の精神的健康に関する内容について, 感情労働の視点を中心に据え, 分担執筆を行った。(該当章分担執筆者: 畑中美穂・関谷大輝, 松井 豊(監修), 湯川進太郎・吉田富二雄(編集))
2) 『看護に活かすカウンセリングⅡ 感情のマネジメント—効果的な患者支援と看護師のメンタルヘルスのための自己調節—』	分担執筆	平成 28 年 3 月	ナカニシヤ出版	シリーズ第 2 巻中, 感情の開示によるストレス対策について解説する章を分担執筆者として担当した。 (伊藤まゆみ (編), 分担執筆: 関谷大輝, 範囲: 第 5 章 3 『不快な感情を効果的に表出する: 筆記開示法』)



3) あなたの仕事、感情労働ですよね？	単著	平成 28 年 11 月	花伝社	本書は、一般の読者層を対象にした感情労働の概説書である。著者が実施してきた諸研究の知見をはじめ、主に心理学的な知見に基づく感情労働の諸理論や諸影響、対処方略などについて分かりやすく紹介した。
4) 感情心理学ハンドブック	分担執筆	印刷中	北大路書房	コラム「スマイルは0円でも一職業場面における感情管理への注目」を執筆した。
5) 健康心理学辞典	分担執筆	印刷中	丸善	項目「児童虐待」および「感情労働」を執筆した。
(学術論文) 1) 対人援助職者の感情労働における感情的不協和経験の筆記開示 (査読あり)	共著	平成21年10月	心理学研究, 第 80 卷, 第 4 号, 295-303 頁	本研究では、感情労働中の感情的不協和(emotional dissonance)経験に着目し、現職のソーシャルワーカーや保健師などの対人援助職者を対象とした実験的手続きを行った。具体的には、感情的不協和経験について日記的な筆記開示法を行うことを通じて、ネガティブな反すうおよびバーンアウトの低減を試みることを目的であった。この結果、筆記開示を実施した群の感情的不協和得点が有意に低減する傾向を示した。筆記開示によって、労働者が経験した出来事の認知的な捉え直しが促進され、感情的不協和の低減に影響を与えた可能性が示唆された。以上の結果を踏まえて、対人援助的業務に従事する労働者の健康維持・向上の方略について、考察を行った。(共著：関谷大輝・湯川進太郎) (第17回筑波大学心友会上武学術奨励賞受賞論文)
2) 感情労働の諸相—表層演技, 深層演技と	共著	平成 22 年 3 月	筑波大学心理学研究, 第 39 号, 45-56 頁	本研究では、実務場面において感情労働がどのように行われている

<p>副次的プロセスに着目して—</p>				<p>るかを検討すること、および、感情労働の事後的な影響過程について検討するため、フルタイムで就労する8名の社会人にインタビュー調査を実施した。その結果、業務中のストレスが強いほど、仕事とプライベートの心理的な切り替えが困難となり、プライベートな時間に業務ストレスへの再暴露が起きている傾向が確認された。今後の感情労働研究においては、感情労働をプロセスとして捉え、事後的過程への対処法略を検討する必要性が示唆された。なお、本研究は、財団法人フランスベッドメディカル・ホームケア研究・助成財団による研究助成(50万円)を受けて実施された研究の一部である。(共著：関谷大輝・湯川進太郎)</p>
<p>3) 副次的感情の開示による感情労働者のバーンアウト低減の試み—携帯電話の電子メール機能を活用して— (査読あり)</p>	<p>共著</p>	<p>平成24年10月</p>	<p>感情心理学研究, 第20号, 9-17頁</p>	<p>本研究は、携帯電話のEメール機能を活用した感情開示によって、現職の感情労働者のバーンアウト低減を試みる実験的検討であった。実験条件として、感情労働の事後的な想起に伴う感情喚起である副次的感情の開示を行う実験群、感情的経験とは無関係な日常生活習慣を開示する統制開示群、および、開示手続きを行わない統制無開示群の3群を設定した。開示手続きは、3週間にわたる日記的開示とした。二要因混合計画に基づく分散分析の結果、実験群のバーンアウト得点、感情的不協和得点、職務の事後的想起頻度の諸変数が有意に低下する効果が見られ、副次的感情に着目したバーンアウト低減方略の有効性が示唆された。(共著：関谷大輝・湯川進太郎)</p>
<p>4) 構造化箱庭の特徴および有効性—自由記述データのテキストマイニングによる検</p>	<p>共著</p>	<p>平成26年3月</p>	<p>東京成徳大学研究紀要—人文学部・応用心理学部, 第21号, 65-78頁</p>	<p>本研究では、一般的な箱庭の製作と、風景構成法の構造的な教示を応用した構造化箱庭の効果の差を検討することを目的に行われ</p>

討				<p>た。協力者は、双方の箱庭製作を体験した感想を自由記述にて回答し、そのテキストデータを用いたテキストマイニングとコレスポンド分析を実施した。その結果、箱庭に実施方法には双方の手法ともにメリットとデメリットがあることが示唆された。すなわち、自由箱庭は情動面の活性化に寄与する反面、不安や迷いといったネガティブ情動も生じるリスクが指摘された。一方、構造化箱庭では、箱庭への取り組みやすさが高まる反面、逐次出される教示による焦りが生まれる危険性が指摘された。</p> <p>(共著: 関谷 大輝・加地 雄一・鎌田 弥生)</p>
5) 箱庭の手続きを構造化することの効果について—主観的自己評価と心拍変動による検討—	共著	平成 26 年 3 月	東京成徳大学研究紀要—人文学部・応用心理学部, 第 21 号, 55-64 頁	<p>本研究は、構造化された箱庭と一般的な箱庭の効果と比較するため、これら 2 種類の箱庭に取り組んでいる最中の心拍変動や心理尺度への回答傾向を比較した実験研究であった。その結果、心拍変動については両条件間に有意差は見られなかったが、感情状態を測定する心理尺度においては、“びくびくした”という項目の得点が、構造化箱庭の実施後の方が一般的な箱庭実施後よりも低い傾向が見られた。(共著: 加地 雄一・関谷 大輝・鎌田 弥生)</p>
6) 風景構成法における距離感と構成型との関係に関する考察	共著	平成 26 年 3 月	東京成徳大学研究紀要—人文学部・応用心理学部, 第 21 号, 79-88 頁	<p>本研究では、構造化された箱庭の有効性検討に資するため、構造化箱庭が参考とする風景構成法における描画体験について、“距離感”という視点から考察した。風景の構成が良い画が描画されている際には、(a) 製作者が現実的に作品を見つめる視点に加え、(b) 製作者の内的世界を見つめる視点を併存的に持ちながら描画が行われている可能性が示唆された。(共著: 鎌田 弥生・加地 雄一・関谷 大輝)</p>

7) 感情労働尺度日本語版 (ELS-J) の作成 (査読あり)	共著	平成 26 年 5 月	感情心理学研究 第 21 巻第 3 号, 169-180 頁	本研究は、感情労働概念において重要な下位概念となる表層演技や真相演技について測定が可能な Blotheridge & Lee (2003) による感情労働尺度を和訳し、“感情労働尺度日本語版”を開発した。本尺度は、一定の信頼性および妥当性が確認された。一方、今後さらなる測定精度の改善に向け、妥当性の詳細な検討や、項目表現の改善などの課題について言及を行った。(共著：関谷 大輝・湯川 進太郎)
8) 大学生の対人サービス活動において経験される不快感とその影響—活動態度の悪化に対する情動知能の調整効果に着目して— (査読あり)	共著	平成26年12月	ヒューマン・ケア研究 第 15 巻第 2 号, 78-87 頁	本研究は、アルバイト等において対人サービス活動に携わる大学生を対象とした調査を行い、活動中の感情的不協和経験に伴う不快感が、活動態度を毀損することを明らかにした。また、この影響の調整要因を検討した結果、情動知能得点の向上することによって、不快感が高まるほどに活動の効力感を向上させる可能性があることを示唆した。(共著：関谷 大輝・塚本 智大)
9) 温泉ツーリズム志向と温泉イメージの特徴を探る—心理的要因との関連に着目して—	共著	平成 27 年 3 月	東京成徳大学研究紀要—人文学部・応用心理学部— 第 22 号, 49-62 頁	本研究では、我々が温泉に対して抱いているイメージを明確化し、人々の健康増進に対して温泉がいかなる特徴を有しているのかを、定性的・定量的検討から明らかにすることを目的とした。温泉は、類似の入浴施設であるスーパー銭湯よりもリラクゼーションや疲労回復イメージとの結びつきが強い傾向が見られた。また、身体的愁訴が強いほど温泉志向が向上する反面、抑うつ感のような心理的症状が高まると、温泉の活用可能性が低下することが示唆された。(共著：関谷 大輝・加地 雄一)
10) メールと Twitter の	共著	平成27年10月	東京家政学院大学紀要,	本研究では、メールアドレスと

アカウント作成における個人差—アカウント名に反映される心理—			第 55 号, 37-42 頁	Twitter のアカウント名について, 作成者の感情やパーソナリティとの関連を検討した。その結果, 作成時の気分によってアカウント名の長短や使い分けに差が生じることが示唆された。また, 勤勉性が高い者のアカウント名には有意味語が含まれない傾向が見られた。(共著: 加地 雄一・関谷 大輝)
11) 感情的不協和経験の概念的再検討—対人援助職従事者による記録調査データを用いて— (査読あり)	単著	平成 28 年 3 月	福祉心理学研究, 第 13 卷, 43-53 頁	本研究では, 感情労働において経験される葛藤である, 感情的不協和の実際の発生場面について, 対人援助職者 16 名が記述したテキストデータの分析を行った。この結果, 感情的不協和は, 真の感情, 感情規則, 表出した感情, 価値観といった多様な要因間における齟齬が生じた際に経験されることが示唆された。今後, 感情的不協和を多面的な概念構造として捉え直し, 労働者に及ぼす影響を実証的に明らかにしていく必要性について考察した。
12) 看護師版感情対処傾向尺度の開発—尺度の信頼性・妥当性の検討 (査読あり)	共著	平成 29 年 12 月	ヒューマン・ケア研究, 第 18 卷, 25-35 頁	本研究では, 現職の看護師を対象にした質問紙調査にもとづき, 看護師が職務中に行う感情対処に関する新たな測定尺度の開発を行い, その信頼性と妥当性を検討した。(共著: 金子多喜子・森田展彰・伊藤まゆみ・関谷大輝)
13) 「温泉は, 嫌い。」—温泉を嫌う人々の理由および心理的特徴の分析—	単著	平成 30 年 3 月	東京成徳大学研究紀要—人文学部・応用心理学部—, 第 25 号, 83-96 頁	本研究では, わが国においては少数派といえる“温泉が嫌い”である人々が抱く嫌悪感の理由について調査した。温泉が嫌いな理由は, 必ずしも温泉の“湯そのもの”が嫌いなのではなく, 清潔感や他者との入浴などといった環境面への嫌悪感に起因する場合が多いことが明らかになった。
14) 看護師業務における	共著	平成 30 年 3 月	ヒューマン・ケア研究,	本研究では, 看護師の職務中の

<p>感情管理の特徴—テキストマイニングを用いた面接記録の探索的分析— (査読あり)</p>			<p>第 18 卷, 97-110 頁</p>	<p>感情管理の様態についてインタビュー調査した結果の定性的な整理を通じ、看護師の職業的感情管理の特徴の記述を試みた。看護師業務においては、患者に対する感情管理が求められる一方で、同僚間での感情管理による影響の大きさが示唆された。(共著：関谷大輝・伊藤まゆみ・金子多喜子)</p>
<p>15) 2018 (平成 30) 年度千葉県内の小中高校におけるスクールカウンセラー活用状況について</p>	<p>共著</p>	<p>平成 31 年 3 月</p>	<p>東京成徳大学教職課程年報, 第 2 号, 36-41 頁</p>	<p>本実践報告では、千葉県内の小学校, 中学校, 高等学校の教員を対象としたアンケート結果から、各学校におけるスクールカウンセラーの活用状況や活用・連携上の課題等を定性的に検討した。スクールカウンセラーの勤務体制やスクールカウンセラーが児童生徒に寄り添う姿勢などについて、教員側からの意見が見られた。</p>
<p>16) 感情労働に伴う感情対処育成のための Web 版教育プログラムの検討 (査読あり)</p>	<p>共著</p>	<p>印刷中</p>	<p>日本看護科学学会誌</p>	<p>本研究では、看護師の適応的な感情調整の在り方を促進する教育プログラムを構築し、その効果の検証を行った。マンガを活用した感情調整方略教材によって、適応的な対処スタイルの習得が促進されることが明らかになった。(共著：金子多喜子・森田展彰・伊藤まゆみ・関谷大輝)</p>
<p>17) 職業的感情管理および仕事と家庭の分離が養育行動に及ぼす影響—共働きの母親を対象とした検討— (査読あり)</p>	<p>単著</p>	<p>印刷中</p>	<p>健康心理学研究 (特集号)</p>	<p>本研究では、育児に携わっている共働きの母親を対象としたオンライン調査を実施し、職場場面における感情管理の傾向が、家庭における不適応的な養育行動とどう関係するかについて分析を行った。その結果、職務中に深層演技を行う傾向が高い場合、適応的な養育行動の度合いも高いことが示唆された。</p>

<p>(学位論文)</p> <p>1) 感情労働における感情処理プロセスおよび介入方略に関する検討</p>	<p>単著</p>	<p>平成 23 年 3 月</p>	<p>筑波大学大学院人間総合科学研究科生涯発達科学専攻 平成 22 年度博士学位論文</p>	<p>本論文では、サービス産業における感情労働が労働者に及ぼすネガティブな影響として特にバーンアウトに着目し、その軽減を試みることを目的とされた。本稿は、質問紙を用いた調査研究、感情労働を行う社会人へのインタビュー調査、ならびに、実験的研究を用いた 9 本の実証的研究から構成された。本研究では、労働者が仕事場面から離れた後（休日や帰宅後等）において想起する職務関連感情を“副次的感情”として定期し、副次的感情が労働者に大きな影響を及ぼすプロセスを解明した。この影響を軽減するため、感情の開示方略として筆記開示法を応用した手法によって、労働者のバーンアウトが実際に低減されることを明らかにした。</p>
<p>(その他—研究助成報告書)</p> <p>1) 在宅生活を支援する対人援助業務従事者の感情労働に関する研究—感情管理がもたらすネガティブな影響の予防と、ポジティブ効果の増進を目指して—</p>	<p>単著</p>	<p>平成 21 年 9 月</p>	<p>財団法人フランスベッドメディカル・ホームケア財団 第 19 回（平成 20 年度）研究助成・事業助成報告書、660-689 頁</p>	<p>本研究では、実務場面において感情労働がどのように行われているかを検討すること、および、感情労働の事後的な影響過程について検討するため、フルタイムで就労するソーシャルワーカーや医療職、民間企業勤務者など 8 名の社会人にインタビュー調査を実施した。その結果、業務中のストレスが強いほど、仕事とプライベートの心理的な切り替えが困難となり、プライベートな時間に業務ストレスへの再暴露が起きている傾向が確認された。今後の感情労働研究においては、感情労働を中長期的な“プロセス”として捉えるとともに、事後的なストレスへの再暴露に対する対処方略を検討する必要性が示唆された。なお、本研究は、財団法人フランスベッドメディカル・ホームケア研究・助成財団による研究助成（50 万円）を受けて実施された。</p>

<p>2) マインドフルな育児行動による効果の検討ーマインドフル育児尺度の作成および知見のマンガ教材化の試みー</p>		印刷中	発達科学	<p>本研究では、マインドフルネス概念を育児場面に応用した「マインドフル育児 (mindful parenting)」に着目し、この傾向を測定可能な日本語版尺度の開発を行った。この尺度を用いた調査の結果、マインドフル育児は適応的な育児を促進することが示されたため、マインドフル育児に該当する育児姿勢をマンガのストーリーとしてまとめた教材の作成を行った。なお、本研究は、公益財団法人発達科学研究教育センターによる学術研究助成金 (50 万円) を受けて実施された。</p>
<p>(その他ー 学会発表 ; 口頭)</p> <p>3) What emotion occurs in emotional dissonance? exploratory categorization of emotional dissonance among Japanese helping professionals.</p>	共同発表	平成 19 年 7 月	<p>Proceedings of the XV meeting of the International Society for Research on Emotions, 59. (Sunshine Coast, Australia)</p>	<p>本研究では、対人援助職におけるパーソナリティ、感情労働、バーンアウトの関連を検討することを目的として、現職の対人援助職者 440 名を対象に質問紙調査を実施した。重回帰分析を繰り返したパス解析を用いて、職務中の感情の不協和とバーンアウトの関連を中心とした仮説モデルの検討を行った結果、完全主義傾向や反すう傾向が、バーンアウト促進の一因となることが示唆された。対人援助職のバーンアウトを抑制するためには、パーソナリティ諸要因についての検討が必要となることについて考察を行った。(共同発表 : <u>Sekiya, D., &amp; Yukawa, S.</u>)</p>
<p>4) 感情労働における副次的プロセスー副次的感情の影響に関する縦断的検討ー</p>	単独発表	平成 23 年 7 月	<p>日本ヒューマン・ケア心理学会第 13 回大会 プログラム・発表論文集, 35 頁 (大阪市立大学)</p>	<p>本研究では、感情労働者が帰宅後や休日などに事後的に想起する職務関連感情を“副次的感情”とし、表層演技や深層演技といった感情作業の諸変数と副次的感情のそれぞれが、中長期的にどの程度バーンアウトを規定するかを、6 か月の調査間隔を設定した縦断的調査によって検討した。社会人 248 名を対象とした調査の結果、副次的感情は、感情作業に比べて、6 か月後の情緒的消耗感および脱人格化に対して、大きな決定係数の増分を示すことが明らかとなっ</p>



<p>5) Do emotional laborers reap the benefits of hot springs?: Effects of stress reactions on coping behaviors</p>	<p>単独発表</p>	<p>平成 28 年 5 月</p>	<p>4th International Conference on Hospitality &amp; Tourism Management (Bangkok, Thailand)</p>	<p>た。すなわち、感情労働プロセスにおいては、職務中の感情作業のみならず、事後的な感情喚起過程である副次的プロセスへの着目が重要であることが示唆された。</p> <p>本研究では、感情労働に携わっている社会人の温泉志向性と、実際の温泉訪問頻度について質問紙調査を実施した。分析の結果、ストレス反応が高い一群において、“温泉好き”と“温泉好きではない”者の温泉訪問頻度を比較すると、“温泉好き”である者の温泉訪問頻度が少ないという交互作用が見られることが明らかになった。職業ストレスを受ける者にとってのコーピング方略としての温泉ツーリズムの活用方策について考察した。</p>
<p>6) Emotional labor In the family setting: Impact of mothers' emotional regulations toward husband on child raising</p>	<p>単独発表</p>	<p>平成 28 年 7 月</p>	<p>The 31st International Congress of Psychology (Yokohama, Japan)</p>	<p>本研究では、家庭内において母親が夫との関わりの中で行わねばならない感情抑制や感情の偽装を“家庭内感情労働”と位置づけ、それが育児行動に及ぼす影響について検討した。その結果、家庭内感情労働は、一般的な職業としての感情労働と同様に、ネガティブな影響を及ぼす面が見られたのと併せて、共感的な感情管理を行った際にはポジティブな影響を及ぼす性質が見られることが示された。</p>
<p>7) 仲間集団との関わりが持つ意味と影響—日本人とミャンマー人の比較から見える支援へのパースペクティブ—</p>	<p>単独発表</p>	<p>平成 28 年 9 月</p>	<p>日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第 18 回大会プログラム・講演集, 36.</p>	<p>本研究では、日本人とミャンマー人の友人関係上の特徴を質問紙調査によって比較した。その結果、日本人は、友人から嫌われたくないと思う程度が非常に高いが、それがストレス反応に結びついていないことが明らかになった。一方で、日本人は、友人集団との関係性が大きなストレス要因になることが示され、日本人の友人関係において友人集団が持つ意味の大きさが示唆された。(共同発表：関谷大輝・ナン カンキン)(日</p>

<p>8) 看護師版感情対処傾向尺度作成の試み</p>	<p>共同発表</p>	<p>平成 28 年 9 月</p>	<p>日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第 18 回大会プログラム・講演集, 35.</p>	<p>本ヒューマン・ケア心理学会 学術集会第 18 回大会 優秀発表賞 口頭発表部門受賞)</p> <p>本研究では、現職の看護師を対象にした質問紙調査にもとづき、看護師が職務中に行う感情対処に関する新たな測定尺度の開発を行い、その信頼性と妥当性を検討した。(共同発表:金子多喜子・森田展彰・大谷保和・斎藤 環・伊藤まゆみ・関谷大輝)</p>
<p>9) The most stressful person in emotional labor: Who someone is the major target of stressful emotional management?</p>	<p>単独発表</p>	<p>平成 29 年 1 月</p>	<p>the Fifteenth Annual Hawaii International Conference on Arts and Humanities</p>	<p>本研究では、感情労働への従事者が、職務中に関わるどのような対象者に対して感情管理を行っているのかを、質問紙を用いて調査した。また、あわせて、感情管理上、最もストレス要因となる存在が誰であるかを確認した結果、顧客やクライアント以上に、上司が感情管理上のストレスサーになっているということが明らかになった。</p>
<p>(その他— 学会発表 ; ポスター)</p> <p>10) Effects of writing emotional dissonance experiences in daily work on burnout in helping professions.</p>	<p>共同発表</p>	<p>平成 18 年 8 月</p>	<p>Proceedings of the XIV meeting of the International Society for Research on Emotions, 45. (Atlanta, US)</p>	<p>本研究では、対人援助職におけるパーソナリティ、感情労働、バーンアウトの関連を検討することを目的として、現職の対人援助職者 440 名を対象に質問紙調査を実施した。重回帰分析を繰り返したパス解析を用いて、職務中の感情の不協和とバーンアウトの関連を中心とした仮説モデルの検討を行った結果、完全主義傾向や反すう傾向が、バーンアウト促進の一因となることが示唆された。対人援助職のバーンアウトを抑制するためには、パーソナリティ諸要因についての検討が必要となることについて考察を行った。(共同発表 : <u>Sekiya, D., &amp; Yukawa, S.</u>)</p>
<p>11) 対人援助職者における感情の不協和経験の筆記開示によるバーンア</p>	<p>共同発表</p>	<p>平成 18 年 11 月</p>	<p>日本心理学会第 70 回大会発表論文集, 187 頁 (九州大学)</p>	<p>上記、平成 18 年 8 月に “XIV meeting of the International Society for Research on Emotions” にて発表</p>

<p>ウト低減効果の検討</p>				<p>したものと同一の研究について、ポスター発表を行った。(共同発表：関谷大輝・湯川進太郎)</p>
<p>12) 対人援助職者における感情の不協和経験の分類</p>	<p>共同発表</p>	<p>平成 19 年 9 月</p>	<p>日本心理学会第 71 回大会発表論文集, 81 頁 (東洋大学)</p>	<p>本研究は、対人援助職者 16 名を対象として日常の職務中の感情的不協和経験の記録調査を行い、その記述から、仕事中に抑制されていた感情の種類の質的分類を試みた。コレスポネンダ分析の結果、対人援助職者はクライアントに対して、実際には表出できないような様々な感情を抱いており、効果的な援助の実施のためには、その感情への適切な対処を行う必要性が示唆された。(共同発表：関谷大輝・湯川進太郎)</p>
<p>13) 大学生が行う対人サービス活動のやりがい感、効力感の低下・向上要因—感情的不協和に伴う不快感に着目して—</p>	<p>共同発表</p>	<p>平成 21 年 5 月</p>	<p>日本感情心理学会第 17 回大会プログラム, 30. (徳島大学)</p>	<p>本研究は、大学生によるアルバイトや実習、ボランティアといった対人サービス活動に着目し、対人サービス活動における不快感や、情動知能の効果について検討を行った。その結果、不快感は対人サービス活動に対する態度を悪化させる要因となるものの、情動知能が高い場合にはその悪影響が緩和される可能性が示唆された。将来のキャリア形成の視点から、大学生による実習やアルバイト活動中の感情体験にさらに着目し、検討を加えていく必要性について考察を行った。(共同発表：関谷大輝・湯川進太郎)</p>
<p>14) A secondary process of job-related emotion regulation: how can we intervene in emotional labor?</p>	<p>共同発表</p>	<p>平成 21 年 8 月</p>	<p>Proceedings of the XVI meeting of the International Society for Research on Emotions, 128. (Leuven, Belgium)</p>	<p>本研究は、対人援助職者 500 名、その他の職業従事者 400 名、計 900 名を対象に実施したアンケート調査を行った。分析の結果、業務に関連した感情経験の影響は務外の時間にまで及んでおり、事後的に感情作業を想起した際に抱く感情 (副次的感情) の喚起が、バーンアウトを強く促進する働きを持つことが示唆された。対人援助職者の職業的持続可能性の観点から、職種に応じたストレス対処方略を検討する必要性について考</p>

<p>15) 携帯電話のEメールを活用した感情開示効果の検討—感情労働を行う現職の社会人を対象に—</p>	<p>共同発表</p>	<p>平成 22 年 5 月</p>	<p>日本感情心理学会第 18 回大会プログラム・予稿集, 30 頁. (広島大学)</p>	<p>察した。(共同発表 : <a href="#">Sekiya, D.</a>, &amp; <a href="#">Yukawa, S.</a>)</p> <p>本研究では、携帯電話の E メール機能を活用した感情開示によって、現職の感情労働者のバーンアウト低減を試みる実験的手続きを行った。感情開示を行う実験群は、感情労働の事後的な想起に伴う感情喚起である副次的感情を、3 週間にわたって日記的に開示した。感情的経験とは無関係な日常生活習慣を開示した統制群と、感情経験を開示した実験群の比較を行った結果、実験群のバーンアウト得点の有意な低下が見られた。したがって、感情労働ストレスによる影響の軽減には、副次的感情に着目することが効果的であり、さらには、副次的感情を適切に開示していくことが、感情労働プロセスへの介入方略として有効である可能性が示唆された。(共同発表 : <a href="#">関谷大輝</a>・<a href="#">湯川進太郎</a>) (日本感情心理学会第 18 回大会優秀発表賞受賞)</p>
<p>16) 学生を対象とした感情労働研究は有効か？—社会人および学生の調査結果の比較から—</p>	<p>共同発表</p>	<p>平成 22 年 9 月</p>	<p>日本心理学会第 74 回大会発表論文集, 82 頁. (大阪大学)</p>	<p>本研究では、感情労働に関する同一の質問紙調査を社会人および大学生アルバイトを対象として実施し、多母集団分析を用いて感情労働プロセスモデルの比較を実施した。その結果、一部の変数間の関係において、社会人と大学生の間に有意な差が見られることが明らかになった。その一方で、全体的な感情労働プロセスは、双方の群において同一のモデルが良好な適合を示し、全体的な傾向においては、群間に著しい差異はないことが示唆された。(共同発表 : <a href="#">関谷大輝</a>・<a href="#">湯川進太郎</a>)</p>
<p>17) Longitudinal study of the effects of secondary emotions in emotional labor</p>	<p>共同発表</p>	<p>平成 23 年 7 月</p>	<p>Proceedings of the XV meeting of the International Society for Research on Emotions, 248. (Kyoto, Japan)</p>	<p>前記、平成 23 年 7 月に “日本ヒューマン・ケア心理学会第 13 回学術集会 (大阪市立大学)” において発表したものと同一の研究について、ポスター発表を行った。(共同発表 :</p>

<p>18) Disclosing secondary emotions through expressive writing using cell phone text messages reduces burnout in emotional laborers</p>	<p>共同発表</p>	<p>平成 23 年 10 月</p>	<p>Proceedings of the V meeting of the (Non) Expression of Emotions in Health and Disease, 151. (Tilburg, The Netherlands)</p>	<p><u>Sekiya, D., &amp; Yukawa, S.</u>)</p> <p>本研究は、平成 22 年 5 月に“日本感情心理学会第 18 回大会”にて行ったポスター発表に、新たなデータ（開示手続きを行わずに結果測定のみ実施した統制群データ）を追加し、再分析した結果を報告した。（共同発表：<u>Sekiya, D., &amp; Yukawa, S.</u>）</p>
<p>19) 感情労働における感情的不協和概念の再検討—概念構造の多面性に関する予備的考察—</p>	<p>共同発表</p>	<p>平成 25 年 7 月</p>	<p>日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第 15 回大会プログラム・抄録集, 49. (聖路加看護大学)</p>	<p>本研究は、感情労働における感情的不協和概念について、多面的構造として概念を捉え直す試みとして、新たに構成した尺度を用いた予備的調査結果を分析した。この結果、感情的不協和は、自分自身の言動を振り返ることによる不協和である内生的不協和と、仕事として自らの意図とは異なる言動をしたことによって生じる役割的不協和の 2 下位因子に分類できる可能性が示唆された。（共同発表：<u>関谷大輝・湯川進太郎</u>）</p>
<p>20) 看護師の職務における感情調整に関する探索的検討</p>	<p>共同発表</p>	<p>平成 27 年 9 月</p>	<p>日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第 17 回大会プログラム・発表論文集, 40. (日本赤十字看護大学)</p>	<p>本研究では、現職の看護師に対して職務中の感情調整に関する面接調査を実施した。得られたナラティブデータをテキストマイニングによって分析した結果、看護師の感情調整の対象者は、先行研究にも見られるように患者に対するものが多いことが示唆された。また、同時に、職場内の人間関係、特に上下関係がストレス要因となっていると考えられる看護職の感情調整の特徴が浮き彫りになった。（共同発表：<u>金子多喜子・関谷大輝・伊藤まゆみ</u>）</p>
<p>21) 母親の家庭内感情労働と孤独感が養育態度に及ぼす影響</p>	<p>共同発表</p>	<p>平成 27 年 10 月</p>	<p>第 13 回日本福祉心理学会年次大会プログラム・抄録集, 59. (東京福祉大学)</p>	<p>本研究では、母親が家庭内で役割を遂行するために、夫や自分の子どもに対して感情を管理せねばならないことを“家庭内感情労働”と位置づけ、それが母親の孤独感にどのような影響を及ぼすかを検討した。その結果、感情を偽るなどの演技的な感</p>

<p>22) LINE 上のコミュニケーションはユーザーにどう捉えられているのか？ —使用時の感情状態および情報伝達に着目した予備的検討—</p>	<p>共著</p>	<p>平成 28 年 6 月</p>	<p>日本感情心理学会第 24 回大会 (筑波大学)</p>	<p>情管理は母親の孤独感を促進し、結果的に不適切な養育にも結びつく危険性が示唆された。(共同発表：佐藤裕実・<u>関谷大輝</u>)</p> <p>本研究では、SNS ツールである LINE のユーザーが使用時に LINE に対してどのような使用感を持っているのかについて、質問紙を用いた調査を実施した。その結果、LINE は迅速な情報交換が可能な便利なツールとして捉えられている反面、既読機能の存在等によって人間関係上の葛藤や面倒さをもたらすことや、感情や意図が正確に伝わらないことがあるといったデメリットも認識されていることが明らかとなった。(共同発表：福島法子・<u>関谷大輝</u>・石井辰典)</p>
<p>23) “温泉志向性”の促進要因に関する予備的検討 —Daily hassles および行動賦活系との関連—</p>	<p>単独発表</p>	<p>平成 28 年 6 月</p>	<p>日本感情心理学会第 24 回大会 (筑波大学)</p>	<p>本研究では、温泉に行きたいと思う程度である“温泉志向性”が、個人のどのような要因によって促進されるのかを検討した。その結果、日常生活における様々なストレス経験である日常いらだち事の多寡と温泉志向性の間には関連が見られなかった。一方で、パーソナリティ特性のひとつである行動賦活系の高い人は、温泉志向性も高いという傾向が見られた。日常のストレスが多いことが温泉志向性を促進するのではなく、性格特性が温泉志向性を規定している可能性が示唆された。</p>
<p>24) あなたの印象は1分で悪化する：既読後の時間経過が印象評価に与える影響</p>	<p>共同発表</p>	<p>平成 29 年 6 月</p>	<p>日本感情心理学会第 25 回大会 (同志社大学)</p>	<p>本研究では、SNS ツールである LINE を用いた実験を行い、LINE の返信に要する時間が遅延すると、その相手に対する印象が悪化するという仮説を検証した。その結果、一度迅速な返信を経験した群において、その後返信が遅い相手と出会った際に、その相手に対する総合的な印象が有意に悪化することが示された。(共同発表：福島法子・<u>関谷大輝</u>・石井辰典)</p>

<p>25) 温泉を嫌う人々の声— “温泉嫌い”の理由と 特徴を探る—</p>	<p>単独発表</p>	<p>平成 30 年 5 月</p>	<p>日本温泉地域学会第 31 回 研究発表大会</p>	<p>本研究では、わが国においてマイ ノリティである“温泉嫌い”に着目し、 温泉を嫌いな理由や背景に関する分 析を行った。インターネット上の Q&amp;A サイトに投稿された書き込み の分析と、オンライン調査実施結果 を総合的に分析した結果、温泉嫌い の背景には大きく 3 点の理由があり 得ることが示された。また、温泉嫌い である人々のパーソナリティ特性と して、外向性や開放性が低い一方、神 経症傾向に関してはあまり差が見ら れない可能性が示唆された。</p>
<p>26) 「えーと、あのー、ま あ…」—不適切なフィ ラーが聞き手による印 象評定に及ぼす影響—</p>	<p>共同発表</p>	<p>平成 30 年 11 月</p>	<p>日本感情心理学会第 26 回 大会（東洋大学）</p>	<p>本研究では、“えーと”、“あのー”と いった言い淀みであるフィラーの影 響に着目し、フィラーが過度に用い られた際の印象変化を実証的に検討 した。その結果、フィラーが過度に用 いられた場合には、話し手に対する 印象が総体的に悪化することが示さ れた。（共同発表：上野未来・関谷大 輝）</p>
<p>27) 温泉愛好者はストレス 解消のために温泉に行 くのか？—職業ストレ スと温泉利用頻度の関 係に関する実証的検討 —</p>	<p>単独発表</p>	<p>平成 30 年 11 月</p>	<p>日本温泉地域学会第 32 回 研究発表大会</p>	<p>本研究では、社会人の温泉愛好者 および温泉非愛好者を対象に、スト レスの高低に応じて実際にどの程度 温泉地を訪問しているのかについて 検討した。本研究は、平成 28 年 5 月に 4th International Conference on Hospitality &amp; Tourism Management において発表した研 究の再分析結果の報告であった。</p>
<p>28) Assigning proper meaning to stressful nursing work enables adaptive emotion regulation in patient- nurse relationships</p>	<p>共同発表</p>	<p>平成 31 年 1 月</p>	<p>17th Annual Hawaii International Conference on Arts &amp; Humanities</p>	<p>本研究は、看護師を対象にした質 問紙調査の結果から、ストレスフル なケアに対する意味づけのスタイル と、看護師業務における適切な感情 調整方略の関連について検討した。 意味づけにおいて、意味の発見や意 味の理解によって、適応的な感情調 整に結びつく可能性が示唆された。 （共同発表：Sekiya, D., Ito, M., &amp;</p>

<p>29) Factors affecting career resilience in nurses</p>	<p>共同発表</p>	<p>平成 31 年 1 月</p>	<p>17th Annual Hawaii International Conference on Arts &amp; Humanities</p>	<p>Kaneko, T.)</p> <p>本研究は、現職看護師に対する質問紙調査の結果から、キャリアレジリエンスを高める要因に関する検討を行った。その結果、自分らしくあるという感覚である本来感は、一貫してキャリアレジリエンスに対する正の影響を持つことが示された。(共同発表：Ito, M., Kaneko, T., &amp; Sekiya, D)</p>
<p>30) The role if gender and experience on nurses' emotional coping ability</p>	<p>共同発表</p>	<p>平成 31 年 1 月</p>	<p>17th Annual Hawaii International Conference on Arts &amp; Humanities</p>	<p>本研究では、看護師を対象とした質問紙調査の結果から、性差と経験年数によって看護師業務における感情調整のスタイルに差が生じることについて検討した。その結果、男性看護師は女性看護師に比べて自己感情優先および両感情回避的な対処を取りやすい傾向があることが示された。(共同発表：Kaneko, T., Ito, M., &amp; Sekiya, D)</p>
<p>(その他—学会発表； ワークショップ)</p> <p>31) 感情の筆記開示でバーンアウトを軽減できるか—対人援助職者における感情の不協和経験の筆記開示によるバーンアウト軽減の試み</p> <p>(その他 — 学会発表；小講</p>	<p>—</p>	<p>平成 18 年 11 月</p>	<p>日本心理学会第 70 回大会発表論文集, W41 頁 (九州大学)</p>	<p>対人援助職者の感情抑制と感情開示をテーマに、対人援助現場からの話題提供者として、ワークショップにおけるプレゼンテーションを行った。福祉・看護等の対人援助業務に従事する諸職種へのストレス対処方略について、感情が果たす役割の重要性と、いかにして対人援助職者が心身ともに健康な職業生活を送るよう支援が可能かについて、議論を行った。</p> <p>(ワークショップ“感情・思考の抑制と開示：対人援助職におけるメンタルヘルスの改善に向けて” 企画者：余語真夫・佐藤健二・河野和明・大平英樹・湯川進太郎, 司会者：河野和明, 話題提供者：勝原裕美子・松井 豊・関谷大輝, 指定討論者：佐藤健二)</p>



<p>演)</p> <p>32) 感情開示方略を応用した感情労働者のバーンアウト低減ー感情労働プロセスの再検討を通じてー</p>	<p>単独発表</p>	<p>平成 23 年 9 月</p>	<p>日本心理学会第 75 回大会 (日本大学) 小講演</p>	<p>日本心理学会第75回大会小講演において、感情労働者のバーンアウトに低減可能性やその方略に関する小講演を実施した。具体的には、感情労働プロセスの再検討を実施した諸研究から導かれた“副次的プロセス”への着目の重要性和、感情の開示方略として筆記開示法を応用した手法を用いた労働者のバーンアウト低減に関する実験的検討の結果について述べ、実践場面への応用可能性について議論を行った。(司会者：湯川進太郎、講演者：関谷大輝)</p>
<p>(その他ー学会発表； シンポジウム)</p> <p>33) 児童虐待の養育者の心理社会的要因と児童虐待防止への健康心理学的アプローチの試み</p>	<p>ー</p>	<p>平成 25 年 9 月</p>	<p>日本健康心理学会第 26 回大会 (北星学園大学)</p>	<p>本シンポジウムでは、日本健康心理学会児童虐待防止研究部会の活動の一環として、児童虐待防止という観点から健康心理学的なアプローチを模索していくための問題提起と話題提供を実施した。本研究部会の活動紹介と併せて、児童虐待防止に関する研究史、離婚が子どもに及ぼす心理的影響についての話題提供を受け、元児童福祉司としての勤務経験と、臨床社会心理学的な研究の視点から、指定討論者としてのコメントと論点整理を行った。企画者：宮村りさ子・久米喜代美、司会者：宮村りさ子、話題提供者：益子行弘・土橋佑巳子・宮村りさ子、指定討論：関谷大輝</p>
<p>34) 旅 (ツーリズム) と感情ー観光行動における“癒やし”ー</p>	<p>ー</p>	<p>平成 28 年 6 月</p>	<p>日本感情心理学会第 24 回大会 (筑波大学)</p>	<p>本シンポジウムは、我々人間の観光行動 (ツーリズム) が、大会テーマである“癒やし”とどのように関連するかについて、ツーリズム業界で働く実務家とともにディスカッションを行うことを目的に企画した。また、話題提供者として、『消費者(ゲスト)にとつてのツーリズムと“癒やし”ー温泉ツーリズムの心理学的検討からー』というタイトルで温泉ツーリズムと癒やしの関連について、温泉心理学研究の知見について紹介した。(企画者：関谷大輝、話題提供者：村</p>

<p>35) 児童虐待に関連する心理社会的要因について—健康心理学的な視点から児童虐待の諸問題について考える—</p>	—	平成 28 年 11 月	日本健康心理学会第 29 回大会 (岡山大学)	<p>生和子・北川弘二・<u>関谷大輝</u>, 指定討論: 山中 弘)</p> <p>本シンポジウムでは, 児童虐待と関連する心理学的要因として, 愛着の内的作業モデルに基づく知見をはじめとした話題提供が行われ, これを受け, 現場実践の観点からの指定討論を行った。</p> <p>(企画者: 宮村りさ子・久米喜代美, 話題提供者: 宮村りさ子・福井義一・松尾和弥, 指定討論者: <u>関谷大輝</u>・鈴木 平)</p>
<p>36) 感情労働研究再考—心理学分野における感情労働研究のこれからを問い直す—</p>	—	平成 29 年 9 月	日本心理学会第 81 回大会 (久留米大学)	<p>本シンポジウムは, 現在のわが国で感情労働に関連した研究を積極的に展開している研究者を話題提供として迎え, 感情労働研究が抱える課題と, 今後の研究に求められる方向性についての展望を議論した。</p> <p>(企画者: <u>関谷大輝</u>, 話題提供者: 榊原良太・金子多喜子・中川紗江・<u>関谷大輝</u>, 指定討論者: 荻野佳代子)</p>
<p>37) ストレスケアに対する異文化視点の必要性—日本人とミャンマー人の比較から— (学術委員会企画シンポジウム『トランス・カルチュラル・ヒューマンケア—ケアは国境を越えて—』)</p>	—	平成 30 年 6 月	日本ヒューマン・ケア心理学会第 20 回大会 (京都橘大学)	<p>本シンポジウムでは, 主に東南アジア地域を対象とした異文化間交流におけるヒューマン・ケアの現状と在り方に関する話題提供と議論が行われた。(企画者: 日本ヒューマン・ケア心理学会学術委員会・清水裕子・小玉正博・中込さと子・菅佐和子, 司会者: 中込さと子・木村登紀子, 話題提供者: <u>関谷大輝</u>・依田健志・清水裕子・熊谷信広)</p>
<p>(その他 — 著書紹介)</p> <p>1) 自著紹介「あなたの仕事、感情労働ですよね？」</p> <p>2) 書籍紹介 あなたの仕事、感情労働ですよね？</p>	単著	平成 29 年 3 月	ヒューマン・ケア研究, 17(2), 115 頁	平成 28 年 11 月に公刊された著書に関する紹介記事を執筆した。
	単著	平成 29 年 4 月	サービソロジー, 4(1), 33 頁	平成 28 年 11 月に公刊された著書に関する紹介記事を執筆した。